

2025年（令和7年）
11月11日 火曜日
第1994号

京都自動車新聞



京ト協 理事に定年制導入へ
京整振 E V点検項目で調査
整備士等支局長表彰 7人が受賞
K C A A 京都の成約率が好調
◀ 京軽自協が秋のキャンペーン

2
5
7
8
6

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5（京都自動車会館内） 電話（075）672-0552 ファクス（075）682-0205 メール access@kyotojidosha-np.jp https://kyotojidosha-np.jp



2025年秋の叙勲受章者が3日付で発表され、自動車整備事業振興功労で城谷忠氏（73）が

2025年秋の叙勲受章者発表 旭日小綬章に城谷氏 功績たたらえられ栄えある受章

（株）城谷自動車工作所代表取締役会長、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会副会長・代表理事、日本自動車整備商工組合連合会副会長、近畿地区自動車整備連絡協議会会長、一般社団法人京都府自動車整備振興会会長、京都府自動車整備商

工組合理事長が旭日小綬章を受章した。氏の略歴は次の通り。
城谷 忠氏（しろうたに・ただし）1952年10月5日生まれ。立命館大在学中に城谷自動車工作所へ入社し、検査主任者、自動車検査員として業務に精励。81年専務取締役、93年代表取締役社長、2012年代表取締役会長。

1999年京整振理事に就任。整備委員会副委員長、10年近畿運輸局長表彰、14年国土交通大臣表彰などを受賞。

過去最多522社が参加・出展

国内最大 ジャパンモビリティショー



会期中は会場内の各所でステージなどが行われた。今年「ワクワクする未来を、探しに行こう」をコンセプトに据えるショーイベントとして行われ、多くの来場者らでにぎわった。

各分野から招かれたプロフェッショナルたちが、さまざまなテーマについてクロストークを展開する「未来モビリティ会議」にも、多数の自動車ファンが足を運んだ。一方、日替わりコラボ展示には、フェラーリ、ランボルギーニなどのスーパーカーが登場したほか、旧車、痛（い）た車、軽トラックも集

2年ぶりのショー型イベント
JMSは従来の東京モーターショーを引き継ぐイベントとして、23年に初開催された。スタートアップ企業と自動車業界のマッチングを目的とするビジネス型で、一般ユーザー向けのショーケース型を1年ごとに交互で

愛好家やモーターファンが注目
旧車から次世代モデルまで出展
各分野から招かれたプロフェッショナルたちが、さまざまなテーマについてクロストークを展開する「未来モビリティ会議」にも、多数の自動車ファンが足を運んだ。

追跡 データベース

公共投資が高水準

7月 個人消費緩やかに持ち直し

京都府の景気は一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復。個人消費も一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している。観光と住宅投資は増加ペースが鈍化。設備投資は全体としては増加傾向。公共投資は高水準で推移。生産は緩やかに持ち直している。雇用・所得関係も緩やかに改善。日銀京都支店が発表した。

指 標	前年比(増率)
主要小売販売額(7月)	0.0%
京都地区の百貨店売上高(7月)	▲9.6%
スーパー販売額(7月)	1.5%
家電販売額(7月)	▲4.8%
乗用車新車登録台数(7月)	▲7.3%
京都市主要ホテル宿泊客数(7月)	4.4%
管内短観の設備投資額(6月)	3.2%
京都府の新設住宅着工戸数(7月)	2.6%
京都府の公共工事請負金額(8月)	▲14.7%
京都府の鉱工業生産指数(6月)	2.6%(前月比)
京都府の有効求人倍率(7月)	1.29倍(前月比)
京都府の雇用保険被保険者数(7月)	0.1%
京都市の消費者物価指数(7月)	3.3%
貸出(7月)	2.3%



過去最多企業が参加し、101万人が来場した
「モビリティカルチャープログラム」では、戦後から現代までの移り変わる情景と併せて、当時を代表する車の数々を展示。ホンダ「シティ」、マツダ「RX-7」、トヨタ初代「セルシオ」、初代「プリウス」など、時代を反映するとともに今も時を超えて愛される名車に、来場者らの熱い視線が注がれた。

「トミカコーナー」も子どもたちから人気で、幅広い世代が楽しめるイベントとなった。
また、前回開催と同様にスタートアップ企業や大学、研究機関など延べ159社の企業、団体も参加。カーボンニュートラル（CN）、温室効果ガス排出量実質ゼロの実現や自動運転技術の普及など、社会課題の解決につながるテク

完成車メーカーによる新車種の発表やコンセプトモデルの初披露を楽しむに来場するユーザーも多かった。
トヨタの最高峰ブランドに位置付けられたセンチュリーのブースでは、「センチュリークーペ」のプロトモデルを世界初公開。ホンダ、マツダ、スバルなどが、次世代を担うコンセプトモデルを多数発表するなど、自動車ファンの期待にこたえる展示や出展が軒を連ね、盛況のうちに幕を閉じた。

電気自動車
そのBEVは、素敵な「いま」のために、さらに進化した。

Netz
Kyoto

ネットトヨタ京都

本社／京都市右京区西院月双町108-1
☎0120-867-850

https://www.netz-kyoto.co.jp

■Z(FWD)。ボディカラーは左からメーカーオプションのプラチナホワイトパールマイカ(089)。メーカーオプションのアティチュードブラックマイカ(218)×プレシャスメタル(1L5)[2YJ]。アティチュードブラックマイカ(218)。3台とも、235/50R20タイヤ&20×7Jアルミホイール(切剛光輝+ブラック塗装/エアロホイールカバー/センターオーナメント付)はメーカーオプション。■写真は合成です。